

マタイの福音書 第26章26節～29節

今日、主の食卓に与りました。大部まえになりますが、エルサレムを訪ねた折、アッパールームと言われる、最後の晩餐が行われた部屋に足を踏み入れた記憶がよみがえりました。土壁で、窓もなく、薄暗い部屋の片隅にローソクの灯が一灯あるだけの質素なところでした。

敵対する者の目を避けるようにしたどり着いた場所、迷路のはての二階の奥まった片隅の部屋でした。父なる神のみこころの「とき、」十字架を直前にしてイエスが最後の食卓として弟子たちを招いたいわば隠れ家です。

追い詰められたところでの主の食卓です。弟子たちのこれからを支え、切り拓く食卓です。追い詰められた者たちが、反転して福音の使者として遣わされる食卓です。彼らのちからの源となる食卓です。食卓で宣言されたのは、世のちから、知識、戦略の付与ではありません。

食卓で、弟子たちが聞いたのは、罪の赦しと主イエス・キリストとの絆です。パンを食べ、杯を飲むことが罪赦された者の生きる根源となり、主イエス・キリストとの絆の確かさを味わう出来事です。どのような時代にあっても、キリスト者は主の食卓に与り、それが希望とちからの食卓となり歩んできたことを誇りに思います。